



松戸市教育委員会

教育長 伊藤 純一

「教育的な文化づくり」

華やかな桜の季節も、薬（しべ）の賑やかさを通り過ぎ、若さを感じる緑の風景になりました。空気もやっと落ち着いたものとなりつつあります。

さて、AIが当たり前のように存在する情景が、すぐそこまで迫ってきています。急激に進歩するIT文化などにより私たちの生活がどのように変容していくか、どこまで対応が可能なのかと不安もよぎる昨今です。現代の社会では、変化の中で生きることからは逃れられません。もはや、固定的な社会は存在せず、その変化も速く、高度な情報化社会が進む中で課題をも精査する必要性があるような状況です。

教育委員会では、各部・各所属でそれらの課題の対策に苦心・奔走しているわけですが、昨年度設置した教育改革室を中心に、今後の松戸市の教育を考えての改革プラン等を作成し、その施策の実施に向けて準備をしているところでもあります。

ここのところの家庭の教育力や幼児期の教育のあり方などに難しさを感じる中で、「ことば環境格差」を何とかしたいという思いがありますが、その対策の一つとして幼児教育の啓発資料「まつどっ子 未来のために 今」を昨年度作成しました。この取組は長期的視点が不可欠ですが、医師会と連携してのパンフレットの配布やYouTubeからの発信に取り組んでいます。更に機会をいただいで啓発に努力していきます。

そして、学校では、松戸市独自の教科「言語活用科」を開発・実施して7年目に入り、論理的な日本語の表現や実践的な英語力の習得、論理的批判的思考力の育成に向けて努力しているところです。平成30年度から施行が予定されている新学習指導要領には、言語活用科の理念が大きく反映されており、私共も今後の取組に意を強くしているところです。

さて、首都圏にありながら緑の豊かさを誇る本市ですが、内在する社会教育活動の多様さも大きな強みです。現代日本の縮図とも言える様々な教育課題も確かに存在してはいますが、それらの文化活動をより活発にして、みんなでの「教育的な文化づくり」が松戸市には必要と考えています。東松戸では、図書館設置が動き出していますが、学校と図書館を拠点とする「教育的な文化づくり」という思いを強く発信し、松戸市の教育行政を進めていきます。本年度もよろしくお願ひします。

伊藤 純一